令和４年度

研究紀要

広島市立広島特別支援学校

１．　研究の概要

研究主題

知的障害特別支援学校における教師の授業力向上を目指した適切な指導と支援の在り方に関する研究

研究主題設定の理由

今年度より，４カ年計画で新しい研究を進めている。本主題は，昨年度末に実施した校内アンケートより明らかになった，本校教師の抱える課題を基に設定した。

具体的な課題としては，本校の児童生徒数の増加，障害の多様化に伴う日々の指導，学級経営等の難しさを感じているということである。加えて，実態把握の難しさ，学級内の実態差があることによる指導の難しさなどが挙げられた。

そして，アンケートの回答者を特別支援教育に携わる経験年数という視点で見た際，本校は経験年数が３年未満の教師が約４割を占めていることも明らかとなった。

以上の校内アンケートより明らかになった要因を踏まえ，本校教師一人一人が自身の授業力を向上させ，自信をもって授業を行えるよう研究主題を設定した。

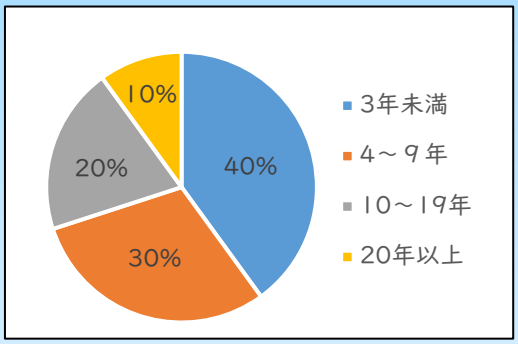


図１　本校教師の特別支援教育経験年数

研究の目的

教師の授業力向上のために，児童生徒の「よし，やろう！」を引き出す授業づくりに取り組み，適切な指導と支援の在り方を明らかにする。

児童生徒の「よし，やろう！」を引き出すとは

図２は，本校のグランドデザインである。その中に示されている目指す子ども像を達成するため，授業づくりに取り組んでいる。

図３は，本校として，「よし，やろう！」が引き出すことができているとしている例である。

場面は物の受け渡しであり，ポイントを２点挙げる。１点目は教師のねらいである。ここでは，教師が「よし，やろう！」とは，明確にどのような力なのかを定めている。具体的には，赤字で示している，言葉を自分から使う力である。２点目は，児童生徒の思考の流れである。教師から「ありがとう」と言われた経験から，ここでは，自分から「ありがとう」を言ってみよう！という思考の流れがあったうえで，「ありがとう」という言葉を使っている。この例が「よし，やろう！」を引き出すことができているとした。

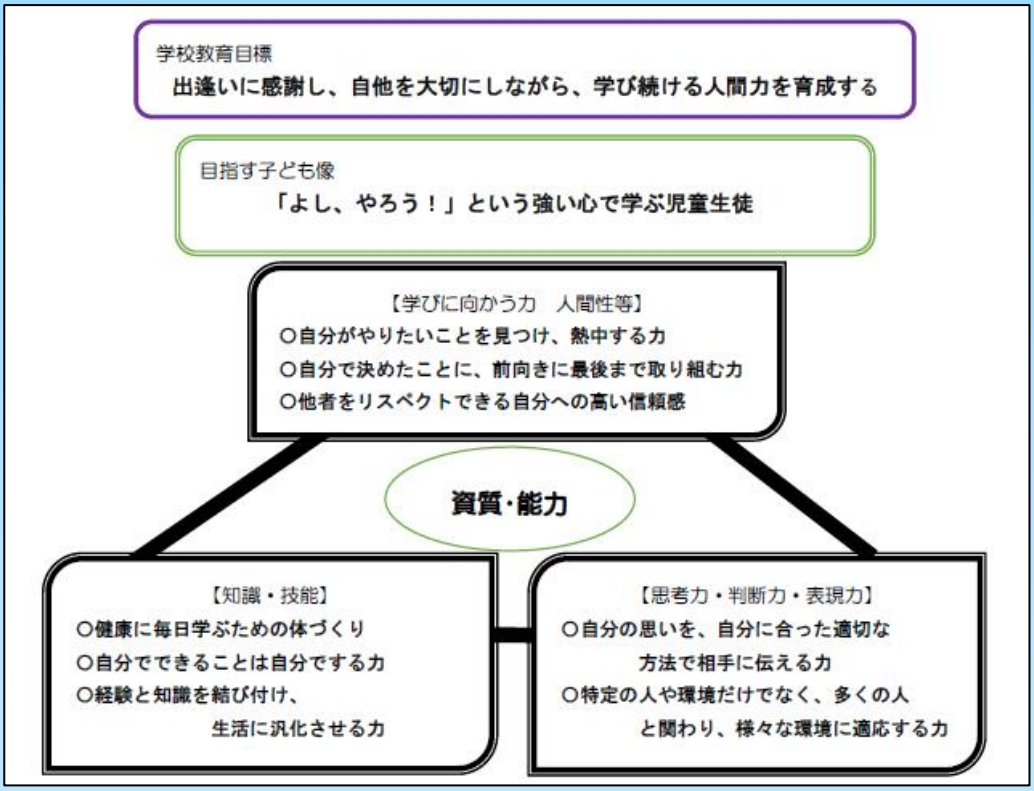


図２　令和４年度広島特別支援学校グランドデザイン

図３　「よし，やろう！」を引き出すことができている例

研究仮説

児童生徒一人一人の課題を整理し，適切な指導目標・内容の設定及び，評価・改善を行うことで，授業力が向上するであろう。

１年目　～課題関連図を用いて実態把握をしよう～

今年度は，副題として～課題関連図を用いて実態把握をしよう～を設定し取組を進めた。自立活動における６区分２７項目に基づき，児童生徒の課題を挙げ，課題関連図の作成を通して，より正確な実態把握を行うことを目指した。

課題関連図の作成については，まず，自立活動の項目・内容から，対象児童生徒の課題を出し合い，課題同士の関連性を考え，中心課題を見つけるという流れで実施した。その後，見出した中心課題に基づいて，目標を決め，取り組む教科・領域を決め，授業づくりを行った。

図４　４カ年計画の研究イメージ

表１　研究計画

＜年次＞	＜副題＞
令和４年度	課題関連図を用いて実態把握をしよう
令和５年度	課題を明確にしよう（仮）
中間まとめ	
令和６年度	目標・指導内容の設定をしよう(仮)
令和７年度	評価・改善をしよう(仮)

2．　研究の実際

研究の方法

・よし，やろう！シート

今年度は，「よし，やろう！シート」を用いて，研究を進めた。「よし，やろう！シート」は，①児童生徒の実態把握をするために，児童生徒の障害の程度，発達や経験の程度，興味関心についてまとめる。②まとめた実態を基に，児童生徒の課題を学級内で話し合い，課題関連図を作成する。③課題関連図を用いて導き出された中心課題から，３月に目指す子どもの姿を考え，児童生徒の「よし，やろう！」を引き出すための授業を計画する。という手順で作成した。作成に当たり，３月に目指す子どもの姿を達成するために適した教科・単元を選び，指導内容，具体的な姿，手立て・支援を学級内で協議した。実施した授業において，授業で見られた児童生徒の姿を基に，指導の振り返りを行った。取組のまとめとして，授業で見られた児童生徒の具体的な姿や設定した中心課題の現状，今後の取組について各学級で話し合い，シートにまとめた。

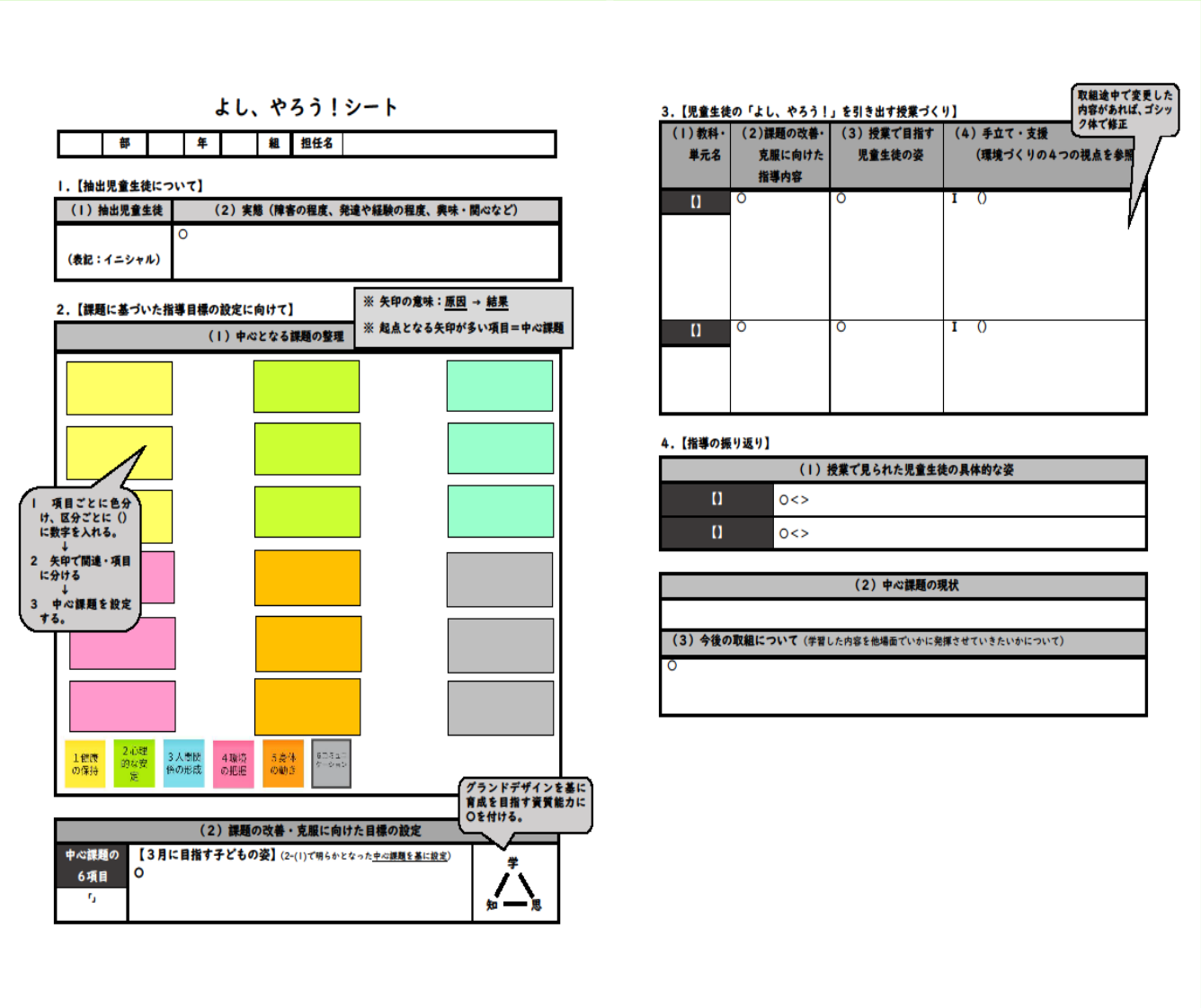


図５　よし，やろう！シート　レイアウト

よし、やろう！シート

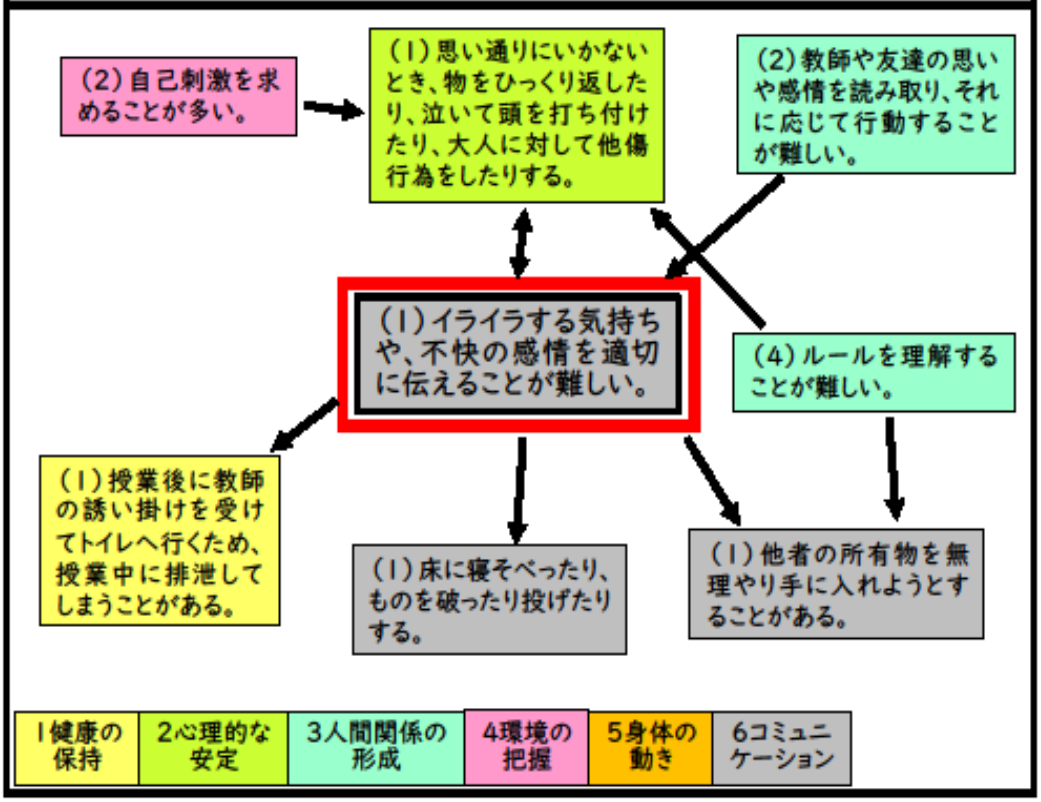
小学	部	○	年	○	組	担任名	○○　○○

1.【抽出児童生徒について】

（1）抽出児童生徒	（2）実態（障害の程度、発達や経験の程度、興味・関心など）
S・H （表記：イニシャル）	○　知的障害を伴う自閉症 ○　発語はなく、身振り・動作で意思表示をする。（お辞儀や拍手など） ○　スイングやバランスボールなどを使用した激しい運動が好き

2.【課題に基づいた指導目標の設定に向けて】

（1）中心となる課題の整理



（2）課題の改善・克服に向けた目標の設定

中心課題の6項目	【3月に目指す子どもの姿】（2-(1)で明らかとなった中心課題を基に設定）	
「6．コミュニケーション」	○　授業中に休憩スペースへ行く際、教師の促しを受けてカードを示し、伝えることができる。(知) ○　自身の欲しい物やしたいことを、カードを選んだり、身振りや動作で伝えたりすることができる。(思)	

図６　よし，やろう！シート　記入例①

3.【児童生徒の「よし、やろう！」を引き出す授業づくり】

（1）教科・単元名	（2）課題の改善・克服に向けた指導内容	（3）授業で目指す児童生徒の姿	（4）手立て・支援（環境づくりの４つの視点を参照）
【日常生活の指導】 休憩時間等のカードを使用した意思表示	○　欲しい物があるとき、トイレや休憩スペースへ行く際は、教師にカードで伝える。	○　欲しい物や行き先を、カードで正しく教師に伝えることができる。(思) ○　休憩スペースに一人で入り、気持ちを切り替えることができる。(知)	Ⅰ　児童の視界に入りやすい場所にカードを設置する。(①) Ⅱ　児童が一人で気持ちを切り替えられるよう、教室内に物を破ったり壊したりしても良い休憩スペースを設置する。(②) Ⅲ　児童の心が落ち着かない状態であるときには、教師が休憩カードを示し、児童がタッチして休憩スペースへ向かうことを習慣づける。(③)
【国語科】 「はじめてのおつかい」	○　友達に欲しい物を伝えたり、友達の欲しい物を買ったりする。	○　カードを友達に渡し、欲しい物を友達に伝えることができる。(思) ○　手元のカードを見て、教師と一緒に商品を買い、友達に渡すことができる。(知)(思)	Ⅰ　児童が欲しいと伝えた物が、実際に手に入るよう、実物を用意する。(①) Ⅱ　欲しい物を伝える際や友達の欲しい物を聞き取る際には、写真カードを用いる。(②)

4.【指導の振り返り】

（1）授業で見られた児童生徒の具体的な姿	
【日常生活の指導】	○教師が身に付けている休憩スペースのカードや、教室に貼ってあるトイレのカードを自ら指差し、伝えることができるようになった。＜Ⅰ、Ⅲ＞ ○泣いているときでも、休憩スペースに入ると一人で気持ちを切り替え、笑顔に戻るようになった。＜Ⅱ＞
【国語科】	○欲しい、したいという気持ちをカードで伝える経験を重ねることにより、自分の示したカードで思いが伝わるということが分かり、本当に欲していると思われる物をカードで伝えることができるようになった。＜Ⅱ＞ ○友達にカードで伝えられた物を教師と共に選び、友達に渡すことができた。＜Ⅰ、Ⅱ＞

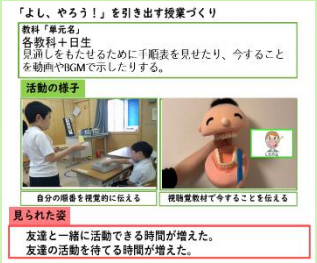
（2）中心課題の現状
休憩カードやトイレカードを自ら指差して伝える機会が増え、その状況に応じた場所で不快感情を処理することで、物を破ったり投げたりする機会は減少した。床に寝そべってしまう姿は継続して見られるが、少し言葉掛けをしたり教師が待ったりすることで、自分から活動に戻ってくることが増えた。
（3）今後の取組について（学習した内容を他場面でいかに発揮させていきたいかについて）
○　席を立たずに自身で休憩カードを取ることができるよう、休憩カードを児童の机に設置し、取組を続けていきたい。 ○　学校内で経験できる選択肢を増やすことで、児童の興味・関心を広げ、「伝えたい。」という気持ちを伝える機会をより多くしていきたい。

図７　よし，やろう！シート　記入例②

各研修会について

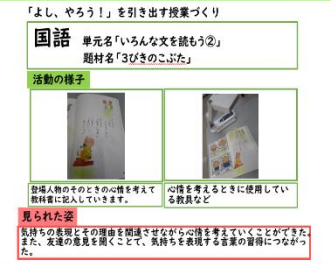
・学部研修会

単一学級は各学部，重複学級は学部縦割りでの研修会をそれぞれ４回実施した。研修では，今年度の研究について共通認識を図り，公開授業学級の授業づくりについて検討を行った。また，中心課題を明確にした授業実践について学び合うために，全学級で「よし，やろう！シート」を作成し，中心課題の検討や授業づくりについて協議を行った。さらに，授業実践の様子や成果について，学部研修会ごとに４学級を抽出し，取組共有を行った。全学級が参加した縦割りの研修会では，小学部，中学部，高等部，重複学級それぞれの取組共有を行い，授業づくりや支援について考える機会となった。



〈小学部〉

〈中学部〉



〈高等部〉

〈重複学級〉

・全体研修会

校内の教師を対象とし，全３回の全体研修会を実施した。課題関連図に基づいた実態把握や適切な支援，指導の在り方について，理論的な研修を行い，共通理解を図った。７月に実施した全体研修会では，広島大学大学院人間社会科学研究科特別支援教育学領域准教授　船橋　篤彦様より，「子どもの姿を【視て】考える～ワークを中心とした学び～」を御講演いただいた。講演では，ビジョンブリッジ（図８）を用いて，目指す子どもの姿を整理するという方法などを御示唆いただいた。

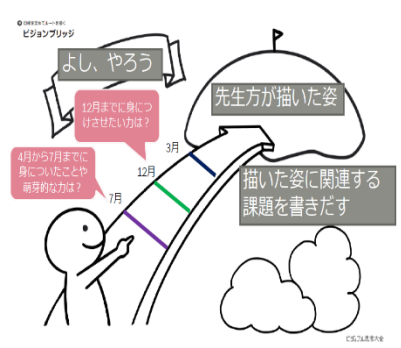


図８　ビジョンブリッジ

・公開授業研究会

令和４年１２月１日に「令和４年度　広島市立広島特別支援学校公開授業研究会」を実施した。小学部２学級，中学部２学級，高等部２学級の授業公開，研究協議会を行った。研究協議会では，公開授業学級の授業動画を視聴し，授業中に見られた児童生徒の「よし，やろう！」という姿について付箋紙に記録した。それに基づき，協議用シートを用いて，その姿を引き出した環境づくり等について「物理的支援環境」と「人的支援環境」に分類をした。また，広島大学大学院人間社会科学研究科特別支援教育学領域准教授　船橋　篤彦様より，「知的障害特別支援学校における教師の授業力の向上を目指した適切な指導と支援の在り方～研究と実践をつなぐ視点を中心に～」を御講演いただいた。

〈授業公開〉

〈研究協議会〉

〈講演会〉

・公開授業研究会　協議用シート

（　　）グループ

<授業で目指す「よし、やろう」の姿>
（A）

<「よし、やろう！」を引き出すための環境づくり>
・　　（A）

【協議の柱Ⅰ】
目指す「よし、やろう！」の姿は引き出されていたか。それはどのような児童生徒の行動から見取ったか。
（ピング付箋）

【協議の柱Ⅱ】
Ⅱ　その姿を引き出した環境づくりはどのようなものがあったか。（水色付箋）目指す姿を引き出すために、加えて取り入れるのであれば、どんな環境づくりが有効であると考えるか。（黄色付箋）

物理的支援環境	
①　教材・教具、支援ツールの効果的な配置	②　児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用
人的支援環境	
③　教師の役割	④　児童生徒の役割

校内授業実践

(1)　小学部第２学年単一障害学級　遊びの指導の取組

◆中心課題　教師・友達との関わり方が分からない。

◆目指す姿

- 適切な方法で教師に気持ちを伝えることができる。
- 友達に物を譲ったり，物を共有したりしながら友達と一緒に遊ぶことができる。

◆単元名　「いっしょにあそぼう」

◆単元の目標と次ごとの取組

〇単元の目標

> 知　設定遊びや触れ合い遊びなど様々な遊びを知り，自ら主体的に遊びに向かうことができる。
> 思　遊びの中で，教師や友達に注目したり，協力したりして遊ぶことができる。
> 学　遊びを通して，友達とやり取りをすることができる。

〇単元の取組

次	時	取組(全６時間　本時:第２次　３時間目　6/6)
1	3	教師と関わりながら遊びを行う。 ・　触れ合い遊び（教師対児童） ・　わらべ歌遊び（教師対児童） ・　追いかけっこ遊び（教師が鬼役）
2	3	友達と関わりながら遊びを行う。 ・　触れ合い遊び（全員でくすぐり遊び） ・　追い掛けっこ遊び（児童が鬼役） ・　バルーン遊び（児童が協力してバルーンを動かす）

〇本時の目標

> 思　教師の支援を受けて，友達の動きに注目したり，友達に呼び掛けに行ったり，友達と場を共有したりして遊ぶことができる。
> 学　教師の支援を受けて，友達に関わりに行ったり，友達からの関わりを受け入れたりすることができる。

◆取組を通して見られた対象児童の変容

今回の取組を行ったことで，友達との関わりに大きな成長が見られた。取組を行う前は，友達に対して興味関心が低く，友達と一緒に何かをしたり，友達と物を共有して遊んだりすることが苦手であった。遊びの指導の授業の中で，児童の好きな追い掛けっこ遊びやくすぐり遊びを友達と一緒に行うことで，遊び自体を楽しみながら必然的に友達と関わることができた。そのため，授業の中では，自分から友達をくすぐりに行ったり，友達から追い掛けられることを楽しんだりする姿が見られた。普段の生活の中でも，友達のことを待ったり，友達と手を繋いで移動したり，自分から友達に話し掛けたりすることができるようになった。今回の取組を通して，友達と関わることの楽しさを感じることができ，関わりたいという気持ちを引き出すことができたと考える。

(2)　小学部第５学年重複障害学級　遊びの指導の取組

◆中心課題　膝が使えていない。

◆目指す姿

・　物を拾う時に，膝を曲げてしゃがんで拾うことができる。

◆題材名　「鬼退治に行こう」

◆題材の目標と次ごとの取組

〇題材の目標

㊟　遊び方が分かって，進んで身体を動かすことができる。
㊟　教師や友達を意識しながら遊びを楽しむことができる。
㊟　遊びに興味や関心をもって，進んで活動することができる。

〇題材の取組

次	時	取組（全１０時間　本時：第２次　３時間目　８／１０）
1	5	・　準備体操をする。 ・　棒をくぐる。 ・　折り紙風船を潰す。 ・　鬼に見立てた起き上がりこぼしを押す。
2	5	・　準備体操をする。 ・　トンネルをくぐったり，障害物を跨いだりする。 ・　折り紙風船を足で潰したり手で取ったりする。 ・　紙に描かれた鬼に向かって玉を投げたり空気砲や発射台を使って玉を打ったりして，鬼を破る。

〇本時の目標

㊟　膝を使ったり顔を上げて課題に注目したりして遊ぶことができる。
㊟　教師や友達と同じ場所で遊んだり，関わりながら一緒に遊んだりすることができる。
㊟　色々な遊びに自分から進んで活動することができる。

◆取組を通して見られた対象児童の変容

身体のイメージがもちにくく，上手に身体を使えていなかったため，今年度は，体育や音楽等でも膝を使うことを狙いとして取り組んできた。対象児童は，膝を使わずに歩くため，歩行が不安定で転倒しやすく，床にある物を拾うときにも膝を曲げずに腰を曲げて拾っていた。そのため，児童が好きな音楽で膝を曲げる体操や，必然的に膝を曲げられるようなトンネルをくぐる活動を取り入れ，膝を曲げることで活動が達成できるよう設定した。本時のメイン活動で，折り紙風船の鬼を踏み潰す場面でも，最初は膝を伸ばした状態で潰していたため，折り紙風船の大きさや高さを調節し，膝を曲げなければ潰すことができないように工夫した。この活動を通して，歩行時には膝を使うことで安定するようになり，走る場面でも今までより速く走ることができるようになった。そして，物を拾う際には，時々膝を曲げて拾う様子が見られるようになった。今後も引き続き取組を続けていき，身体の動きを伝えていきたい。

(3)　中学部第２学年単一障害学級　生活単元学習の取組

◆中心課題　言葉で自分の思いを伝えるのが難しい。

◆目指す姿

・　状況から判断し，その場に合った適切な関わり方で，教師や友達にやりたいこと，来てほしいこと，疲れたことなど，自分の思いを伝えることができる。

◆単元名　「お楽しみ会をしよう」

◆単元の目標と次ごとの取組

〇単元の目標

㊟　その場の状況に応じた，適切な言葉掛けや応答について理解することができる。
㊟　お楽しみ会に向けて，友達や教師に適切な方法で要求を伝えたり，友達からの働き掛けに応えたりしながら，一緒に活動をすることができる。
㊟　教師や友達に思いを伝えようとしたり，友達と協力し合ったりしながら，お楽しみ会に向けた活動に参加しようとする。

〇単元の取組

次	時	取組（全８時間　本時：第２次　４時間目　６／８）
1	2	・　お楽しみ会について知る。 ・　クリスマス会で取り組むゲームについて理解し，練習に取り組む。
2	4	・　ゲームの練習に協力して取り組む。 ・　クリスマスツリーの制作に取り組む。
3	2	・　お楽しみ会の会場を飾り付ける。 ・　お楽しみ会本番。 ・　振り返りを行う。

〇本時の目標

㊟　その場の状況に応じた適切な「ことば」や応答について知ることができる。
㊟　適切な「ことば」や関わり方で，友達や教師をゲームに誘ったり，友達と一緒にお楽しみ会の準備を進めたり，活動したりすることができる。
㊟　お楽しみ会の準備やゲームの練習において，友達や教師を誘い掛けたり，誘い掛けに応じたりしながら，協力し合って活動に参加しようとする。

◆取組を通して見られた対象生徒の変容

今回の取組を通して，自分の思いを適切な方法で相手に伝えることができるようになった。取組当初，相手との適切な関わり方が分からないことや，関わり方を知っていても，その状況に合った望ましい行動を考えて動くという経験が少ないことから，不適切な行動に繋がっていた。自立活動で，適切な関わり方を学び，生活単元学習で適切な関わり方を実践したことで，手伝ってほしい場面では「手伝ってください。」，注目してほしい場面では「先生来てください。」と自分から思いを伝えることができるようになった。今回の取組では，「相手に伝えよう」という気持ちを引き出し，実践することにつなげることができたと考える。

(4)　中学部第１学年重複障害学級　日常生活の指導の取組

◆中心課題　生徒Ａ　首や肩回りの筋緊張が高い。
生徒Ｂ　脳幹部の低形成による自律神経の乱れ，小脳の低形成による平衡感覚と筋肉運動の中枢が不十分のため姿勢保持が難しい。

◆目指す姿

・　筋緊張を緩め，毎日元気で学習することができる。

◆単元名　「よし，元気に朝の会をしよう」

◆単元の目標と次ごとの取組

○単元の目標

㊟　健康に毎日学ぶための体づくりを行う。
㊟　表情や視線，行動で気持ちを表現することができる。
㊟　見る力，聞く力，操作する力を高めることができる。

○単元の取組

次	時	取組
１	４～７月	・　関節可動域運動 ・　SRC ウォーカーで朝の会 ①　朝の挨拶 ②　朝の歌 ③　名前呼びと健康観察 ④　バナナくん体操 ⑤　関わりの歌
２	９月～	・　関節可動域運動 ・　SRC ウォーカーで，バナナくん体操，関わりの歌 ・　SRC ウォーカーや椅子座位で朝の会 ①　朝の挨拶 ②　朝の歌 ③　名前呼びと健康観察 ④　パネルシアター ⑤　頑張りコール

○本時の目標

㊟　関節可動域運動で，筋緊張を緩めた後，体を支える姿勢を学習することができる。
㊟　教師や友達，教材を意識しながら，気持ちを表現することができる。
㊟　見る，聞く，スイッチを操作することができる。

◆取組を通して見られた対象生徒の変容

生徒２人とも，体調の安定に重きをおいて，１次は運動と学習姿勢の習得に取り組んだ。昨年度の３分の１程度の欠席数になり，発作や発熱の回数も減少し，元気に登校することができた。生徒ＡはSRC ウォーカーで体を伸ばした姿勢，生徒Ｂは生徒椅子を使って，前傾姿勢で授業に参加できるようになった。
２次から，見る・聞く・操作する学習の時間を増やした。見る力について，テレビモニターと教師の位置を固定したことで，テレビモニターと教師を交互に見て参加する姿が見られるようになった。見る力の実態把握をすることで，注視しやすくなる手立てを見付けることができ，注視する時間も伸びている。スイッチを操作する学習について，どの授業においても取り組み、継続したことでスイッチだけでなく，友達や教師の方へ手を伸ばし，自分から関わろうとする場面も増えてきた。

(5)　高等部第１学年単一障害学級　キャリア学習の取組

◆中心課題　自分の思いや考えが違うときはどう対処するか，考えることが難しい。

◆目指す姿

・　他人の意見を受け止めて，聞いたり考えたりすることができる。

◆単元名　「自分や相手を知ろう」

◆単元の目標と次ごとの取組

○単元の目標

㊟　物語の内容を理解して，自分の考えや意見を表現することができる。
㊟　意見交流を行い，友達の意見を聞いて自分の思いを伝えることができる。
㊟　多様な価値観をもった友達と交わり，友達の意見を尊重し，考えを広げようとすることができる。

○単元の取組

次	時	取組（全６時間　本時：第２次　２時間目　５／６）
１	３	・　「正直」「思いやり」「公平」のテーマについて物語の教材を使い，話し合いを行う。 ・　リレー発表や役割演技を通して人の意見を聞いたり，自分の意見を発表したりする。 ・　「中心的な問い」を考え，意見交流する。
２	２	・　「決まりの意義」のテーマについて，物語の教材を使い，話し合いを行う。 ・　リレー発表や役割演技を通して人の意見を聞いたり，自分の意見を発表したりする。 ・　「中心的な問い」を考え，意見交流する。
３	１	・　単元で学習した視点について，整理したことをワークシートにまとめ，発表する。

○本時の目標

㊟　物語のテーマを意識して，友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりすることができる。
㊟　友達の意見を聞いて，自分の感想を考えて伝えることができる。
㊟　話し合いを通して考え方の違いに気付き，友達の意見を自分に取り入れて考えることができる。

◆取組を通して見られた対象生徒の変容

キャリア学習で，授業のテーマを中心に生徒同士又は生徒と教師の対話を通して見方や考え方の違いを感じ，視野を広げて考えることをねらいとして展開した。生徒の変容として，小グループで話し合いを行い友達の意見に対して，否定せずに共感したり，受け止めたりする姿が見られた。他の学習とのつながりでは，話し合いの場を設定したとき，対象生徒が司会を務め，自分の意見だけではなく一人一人の意見を聞いて，友達の意見を取り入れて思考する場面が見られるようになった。また，生徒会副会長に立候補し，学校を良くしていきたいという意見をビデオを通じて伝えることができた。生徒会活動では，ポスター作りや挨拶運動など，学級の友達とともに行うことで，友達の大切さやありがたさを感じる機会となった。

(6)　高等部第２学年重複障害学級　自立活動の取組

◆**中心課題**　自分から他者に働き掛けをすることが少ない。

◆**目指す姿**

・　自分の要求を伝えたり，教師からの働き掛けに応えたりするために，自分から教師に関わろうと行動を起こす姿。

◆**題材名**　「表現して伝え合おう～ミュージックスタート～」

◆**題材の目標と次ごとの取組**

○題材の目標

○　音楽や動画を視聴したり，教材に触れたりすることで活動を理解し，落ち着いた様子で活動に向かうことができる。
（「２　心理的な安定」の「（２）状況の理解と変化への対応に関すること　」）

○　提示された教材や教師からの言葉掛けに対して意識を向け，教師と一緒に活動に取り組むことができる。
（「３　人間関係の形成」の「（１）他者とのかかわりの基礎に関すること」）

○　自らの行動でやりたい活動を教師に伝える表現をすることができる。
（６　「　コミュニケーション」の「　１　コミュニケーションの基礎的能力　に関すること」）

○題材の取組

次	時	取組（全９時間　本時：第３次　２時間目　８／９）
１	２	・　体操動画を見ながら教師と一緒に体操をする。 ・　二つのタブレット端末や絵カード，実物を見たり触ったりすることで，やりたい方を選択して伝える。
２	４	・　自立体操を教師と一緒に行い，終わったら次の活動を確認する。 ・　自力歩行や SRC ウォーカーを使用して教師と一緒に活動する。 ・　それぞれの表出方法で，目の前にいる教師にやりたいことを２択から選択する。
３	３	・　自立体操を教師と一緒に行い，終わったら次の活動の準備をする。 ・　自力歩行や SRC ウォーカーを使用してそれぞれ身体を動かす過程の中で，教師と一緒に関わる活動をする。 ・　教師に教材を持って行ったり，教師の手を握り返したりして要求を伝える。

○本時の目標

○　自立体操の動画を視聴しながら体操に取り組むことで，授業が始まることが分かり，見通しをもって落ち着いて活動に向かうことができる。

○　教師から提示された教材や言葉掛けに対して意識を向け，教師と一緒に活動に取り組むことができる。

○　自分が掛けたい音楽を伝えるために，自分の表出方法で要求を表現することができる。

◆**取組を通して見られた対象生徒の変容**

今年度の自立活動の授業では，「自分の気持ちを相手に表現する」ことに力を入れて取り組んできた。本題材を通して，生徒たちの「伝えたい！」気持ちを最大限引き出せるよう取り組み，最初に比べると表情や発声，身振り，視線などの表出が多く見られるようになった。また，授業だけではなく，休憩時間にも好きな音楽を掛けてもらおうと絵カードを持ってきたり，タブレット端末をじっと見た後に教師の方を見るといった，相手に伝えようとする姿も見られるようになってきた。

やりたいことや好きなことを相手に伝えることは，学校を卒業して生徒たちが社会に出ていく中で，重要な力だと思われる。今後も学校での活動を通して生徒たちが好きなことを相手に伝える喜びや，人と関わる楽しさを感じられるように取り組んでいきたい。

３． 研究のまとめ

研究の成果

今年度は，自立活動における６区分２７項目に基づき，課題関連図を用いた実態把握を行い，授業研究を行った。以下，今年度実施した授業研究の成果を２点挙げる。

１点目としては，「実態把握をする上での視点の共有」である。様々な実態の児童生徒が在籍する本校にとって，実態把握の視点は多種多様である。そのような中で，自立活動における６区分２７項目に基づいた，課題関連図を用いた実態把握は，複数の教師が実態把握する際の視点の共有に有効であったと考える。本校教師対象のアンケート回答の中には，「課題関連図により，担任同士で実態把握をすることができる良い機会となった。」，「課題関連図を基にすると，目標設定がしやすくなった。」，「課題関連図で課題の抽出をしたことで，必要な指導内容や支援環境が明確になった。」等の意見が挙がっている。

２点目は，「授業づくりの可視化」である。今年度は，「よし，やろう！シート」を全学級が作成し授業づくりに取り組んだ。「よし，やろう！シート」の記入に際しては，児童生徒の障害の程度，発達や経験の程度等について整理し，自立活動における６区分２７項目に基づき，児童生徒の課題を挙げ，中心課題を設定した。また，長期目標（3 月に目指す子どもの姿）を達成するため，児童生徒の「よし，やろう！」を引き出すための授業を実践した。この「よし，やろう！シート」の記入を通して，目指す児童生徒の姿に沿った教師それぞれの授業づくりが可視化できたと考える。本年度実施した学部研修会におけるアンケート回答の中には，「他学部・他学年の取組を知ることができた。」，「学級の取組に生かしていきたい。」等の回答があった。

研究の課題及び今後の展望

今年度からの研究の目的は「教師一人一人の授業力の向上」であり，授業力の向上を見取るため，７月と１２月の２回において，本校教師対象の実態把握に関するアンケートを実施した。

アンケート結果より，７月段階では８割程度，１２月の段階では依然として７割程度の教師が実態把握に難しさを感じており，明確な授業力の向上を見取ることができなかった。また，自由記述欄に挙がった回答として，「児童の実態把握について，適切な実態把握ができているのか自信がない。」，「常日頃の授業における指導・支援が正しいのか，それを教えてくれる人がいない。」，「発達段階の大きく異なる子どもたちを必要に応じて個別対応しながら一度に活動させることに難しさを感じる。」等の本校教師の抱える課題が挙がった。

以上の課題を踏まえ，今後は，経験年数が３年未満の教師が約４割を占める本校の特色を踏まえて，次年度以降は本校教師の抱える課題をより明確にし，「教師一人一人の授業力の向上」を目指した研究計画を推敲していく必要がある。そして，教師一人一人の授業を見合い，その授業について語り合う時間を十分に取り，自らの授業について語る機会の設定や，他学部・他学年の教師の交流を取り入れていきたい。